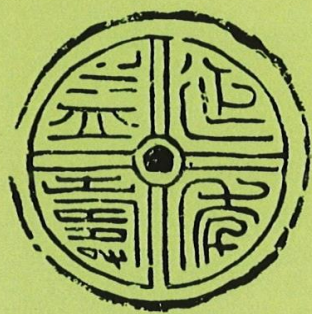




朋 書

デジタル版

2 月 号

徳卑少尉事心賢極
君世貫次繼收孝災
童是名地母養之緯
齒以州大先季性無
好位郡守意祖根文
學不承父母生不
甄副牽琇志供吟綜

537

東京 東邦書院 発行

遠水帶烟爭晚色
西風挾雨作寒威

争は先を争う見はるかす
水面にはもや立ち込めて暮れの
よそおいを急ぎ西風は雨を伴つて
寒さをいやます

尹延高詩、書

遠水帶烟爭晚色
西風挾雨作寒威

尹延高詩

(大意)

争は先を争う

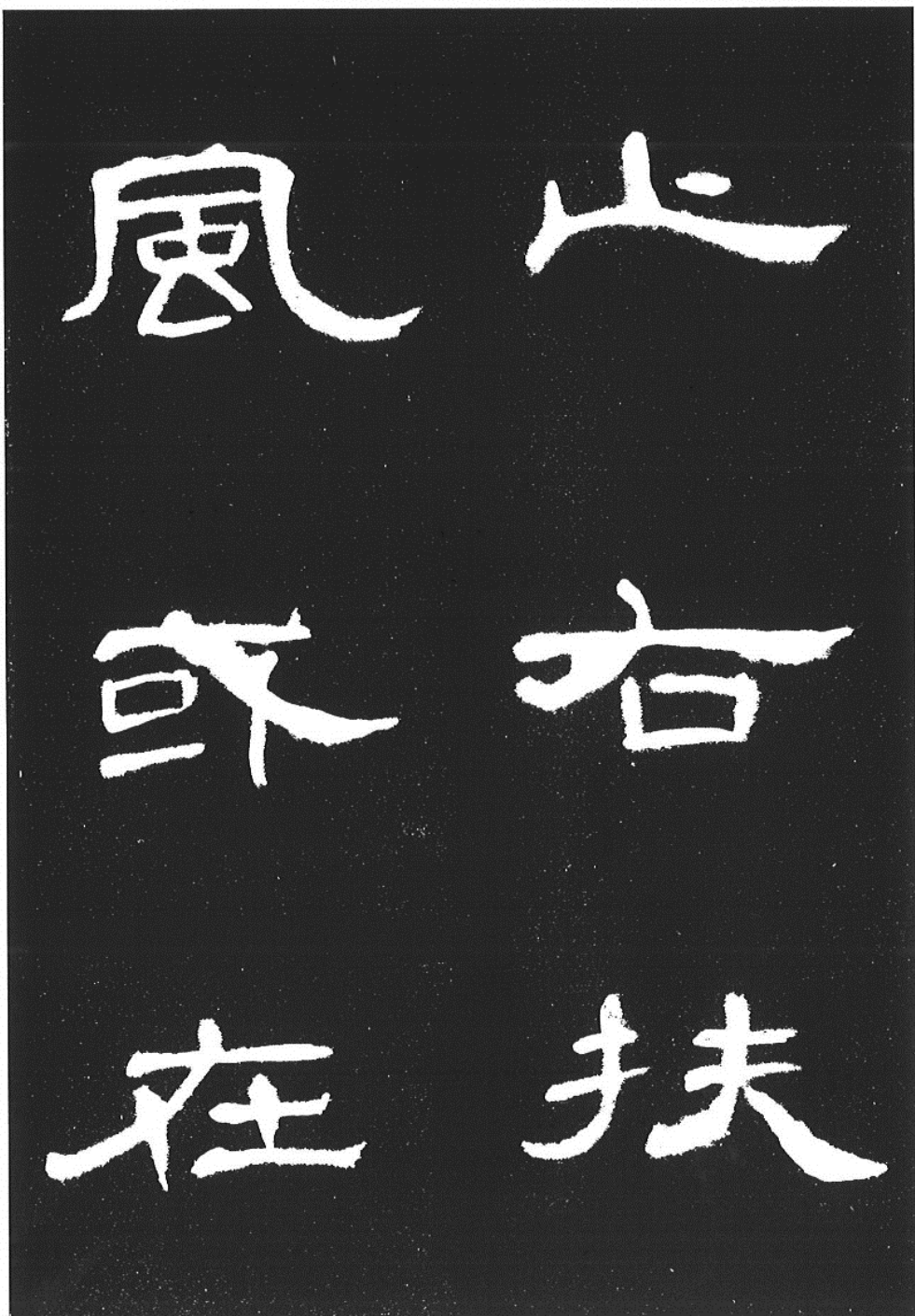
見はるかす水面には

もや立ち込めて暮れの

よそおいを急ぎ西風は

雨を伴つて寒さを

いやます。



秦漢之際。曹參夾輔王室。世宗廓土斥竟。子孫遷于雍州之郊。
分止右扶風。或在安定。

◎「曹全碑」の基本点画

- ・字形が扁平、原則として左右対称
- ・起筆が逆筆、筆の運びは中鋒
- ・起筆、送筆、収筆は一定の速さで書く
- ・横画は水平が基本、縦画は垂直
- ・転折は、別画として書く

条幅参考 (二月二十日本部必着)

◎ 令和二年一月号から、条幅の作品提出は、すべて左記の課題文とします。
なお、書体は自由とします。

荷盡已無擎雨蓋 菊殘猶有傲霜枝
残猶有傲霜枝

堯媛

荷盡已無擎雨蓋 菊殘猶有傲霜枝 (蘇軾詩) 「贈劉景文 (劉景文に贈る)」

(読) 荷は尽きて 已に雨を擎ぐるの蓋無く 菊は残ろえて 猶お霜に 傲るの枝有り

(書き方) 行草書体であるので、筆順を確認し、実線、虚線の別を意識して運筆。

字形の大小、渴筆の生かし方で雰囲気の変わった作品にもなる。

落款 (雅印) の位置で作品が引締まる。雅印も押すようにしたい。

(条幅の書き方)

○「条幅」とは、俗に掛軸と呼んでいる。一般的な呼称としては、三十センチ余りから五十センチ位までを条幅と呼んでいる。つまり半切大、または聯落全紙の縦四分の一を切り落としたものの大きさまでを条幅という。

① 最初に練習するときは、半切の二行に書くのが取組みやすい

② 七言二句 (一四文字) を書く場合は、一行目に八字を書き、二行目に六文字を書くとおさまりが良い。

③ 半切の上部を詰めて、下の部分は少し空けるように書くと良い。

④ 文字は、大きめに、紙一杯に使う方が良い。(大胆に書けるようにする。)

⑤ 「落款」の入れ方も、雅印の大きさや位置についても注意し、全体の調和を心がけたい。

鈴木堯媛書

一般部半紙規定

（二月二十日本部必着）

鶴之園 静山 書

踏

雪

訪

山

樵

踏雪（趙關曉詩）

踏雪訪山樵

山樵踏雪去

一路草鞵痕

尋人松深處

（読み）

雪を踏んで山樵を訪ぬるに、

山樵雪を踏んで去れり。

一路草鞵^{そうあい}の痕^{あと}。尋ね入る松深き處。

（意）

鞵は鞋に同じ。靴。積雪を踏んで山小屋に木こりを訪ねて行ったら、木こりは何処かへ出掛けてとみえ、藁靴の跡が雪の上を続いて松深きあたりに消えている。

一般部半紙随意

踏雪訪山樵

(行書)

内田慶華書

踏雪訪山樵

踏雪訪山樵

(草書)

菅原堯靖書

踏雪訪山樵

一般部仮名課題

山本幸子書

うくひすの奈介と毛いま多
婦るゆ支二 春起の葉しろ支 あふさかの関
あふさかの関 (太上天皇)

うくひすの奈介と毛いま多
婦るゆ支二 春起の葉しろ支 あふさかの関
あふさかの関 (太上天皇)



長泉桑庭書

ひとり
焼く餅
ひとりでも
ふくれ
たる
桑庭書

ひとり焼く餅 ひとりでにふくれたる
(種田山頭火句)

賞状の書き方参考

鈴木昌風書

表彰状

自分の名前殿

あなたは当社に三十年勤務
され幾多の苦難を克服して
業務に精励されました
その功績を讃え記念品を
贈り表彰いたします

令和二年二月二十日

土屋工業株式会社

代表取締役 土屋幸夫

◎ 一月号から教育部は、左記の課題とします。

次号予告 清廉潔白

東 春
雲 光
雪 まだ
ひな祭り
る

小 3・4 年

中 学

次号予告 ひな人形

山 里
の 春
つき
石だん

小 1・2 年・幼

小 5・6 年

望 月 堯 佳 書

滝 口 松 葉 書

硬筆課題

★硬筆用紙の購入は、本部にご連絡ください。

(一冊 二〇〇円)

杉尾雅峰書

ただ過ぎに過ぎるもの帆かけたる舟。

人の齡、春夏、秋、冬、「枕草子」より

生きる時間が黄金のように光る

村野四郎「鹿」より

書店で参考書を探す

雪	北
だ	国
る	は
ま	一
を	面
つ	の
く	銀
ろ	世
う	界

教育部かな部参考（用紙は半紙をタテ半分に切って下さい。）

鶴之園 静 山 書

やまざとはふゆぞ

さびしさまさりける

山里は冬ぞさびしさまさりける 人めも草もかれぬと思えば

源宗千朝臣（古今和歌集冬の部）

次号一般半紙規定予告

山 樵 踏
雪 去

鶴之園 静 山 書

上部の行間の一考、下部の墨量の変化が欲しい。

よき美と細く松の二葉と
好まむと信ずるは

ゆつたりとした運筆で静寂感あり。伸びる線で勢いを表現した作。

露濕牆花春意深
西廊月上半牀陰

右上がり単体で粒が揃いすぎ、文字の長短、墨量で変化の一考を。

渡水復渡水看花還看花春
風江上路不覺到君家

大らかさを出すための終筆が丁寧さを阻害。一画一画に意義を。

寒樹依稀遠
陽明滅亂流中

細身で息の長い運筆の作。墨量で瑞々しさがほしい。

江碧空之迥 良青丘 欣笑之
孝者不遠何是歸 永 祥十

行草書で整然と書かれた作。細部の運筆をしつかりと。

主人不相識偶坐為林泉草
漫然沽酒囊中白少錢

全体的に条幅作品の雰囲気あり。細かい部分の運筆を丁寧。

寒樹依微達天外
夕陽明滅亂流中

全体の雰囲気はあるが、誤字になる運筆部分あり。運筆の確認を。

寒樹依稀遠天外
夕陽明滅亂流中

吉野堯耀

一般部規定入賞作品

白日逐 雲歸 昌風
力強く安定した作。全体のバランスがとともよい。

鈴木昌風

白日逐 雲歸 竹峰
線の伸びがとともきれいです。

八嶋竹峰

白日逐 雲歸 佳舟
筆勢あり。余白も美しい。

長谷川佳舟

白日逐 雲歸 英想
力強く思い切った線を引いています。

高栖英想

白日逐 雲歸 峽洋
丁寧に書かれています。日ノの字はもう少し縦長に。

田中峽洋

白日逐 雲歸 靖浩
調和のとれた作品です。

玉木靖浩

白日逐 雲歸 剣峯
線質もバランスも安定しています。

高萩剣峯

白日逐 雲歸 双郷
余白を生かしてきれいにまとめました。

佐々木双郷

白日逐 雲歸 秀水
筆力あり。自信のある書き振ります。

高橋秀水

白日逐 雲歸 健治
淡々と書いて丁寧なまとめがあります。

勝野健治

白日逐 雲歸 堯濤
字は少し小さいですが丁寧に書かれています。

竹熊堯濤

白日逐 雲歸 雅峰
一画／＼気負いのない線で丁寧に書かれています。

杉尾雅峰

白日逐 雲歸 聖山
字の形に変化をつけて独特の作品。

川崎聖山

白日逐 雲歸 清彦
筆がよく動いて安定しています。

川上清彦

白日逐 雲歸 典雅
気負いのない運筆で安定した作品に仕上がっています。

草野典雅

白日逐 雲歸 光雲
字は少し小さいですが丁寧に書かれています。

佐竹光雲

白日逐 雲歸 侑悟
字が浮き上ってくる様な墨色がとても美しい。

竹森侑悟

白日逐 雲歸 幸生
書きなれた筆使いで調和のとれたまとまりのある作品。

鷺本幸生

白日逐 雲歸 鷹山
伸びのある筆づかいで堂々としています。

大槻鷹山

白日逐 雲歸 截子
線は細いが伸び／＼とバランスがよい。

高沢截子

迷いのない運筆がすばらしい。

字が浮き上ってくる様な墨色がとても美しい。

書きなれた筆使いで調和のとれたまとまりのある作品。

伸びのある筆づかいで堂々としています。

線は細いが伸び／＼とバランスがよい。

一般部規定入賞作品

白日逐
雲歸
矢征 山
思い切りのよい筆使いで迫力あり。

白日逐
雲歸
知恵子 小 冷
ゆつたりしているが、右払いをきつちりと。

白日逐
雲歸
雅成 木 村
思いきった筆使いで迫力あり。

白日逐
雲歸
美和 市 川
ピリツとした筆力に今後楽しみです。

白日逐
雲歸
雅彩 竹 岡
正確な用筆で結体もすばらしい。

白日逐
雲歸
山 剣 東 坂
きりつと仕上げていて、特に右払い見事です。

白日逐
雲歸
紫泉 斎 藤
達者な筆使いで好感が持てます。

白日逐
雲歸
眞由美 福 永
一画／＼ていねいに書けています。

白日逐
雲歸
浩子 鍵 和田
ていねいに書けていますが右払いに注意して下さい。

白日逐
雲歸
クニ 黒 沢
ていねいに書けていますが、墨量が多い。

白日逐
雲歸
庭 栖 野 小
大らかでのび／＼書けています。

白日逐
雲歸
公子 斉 藤
まとまっていますが、転折に配意を。

白日逐
雲歸
久仁子 浅 野
しつかりした気持よい作品です。

白日逐
雲歸
琴 想 波 井
本文はのびやかで堂々としていますが、落款ていねいに。

白日逐
雲歸
男 定 崎 柴
左右の字の大きさが気になりますが、筆使いはすばらしい。

白日逐
雲歸
舟 理 下 山
筆使いが気持よい作品です。

白日逐
雲歸
子 訓 本 山
正確な用筆で結体もよく、これからの楽しみです。

白日逐
雲歸
山 峡 迫 奥
ところどころ弱い線が見受けられますが、期待しています。

白日逐
雲歸
葉 雅 沼 長
筆力が充実しています。

白日逐
雲歸
英里子 坂 浦
線に雄大さを感じます。今後に期待。

一般部随意入賞作品

自然体で書かれ好感を持つ。

雲 白 日 逐

武 山 飛 雲

自然な運筆で味ある風格を感じ
る作。

雲 歸 白 日 逐

長 泉 桑 庭

穏やかで大らかな作風が良い。

雲 歸 白 日 逐

牧 本 衛 雲

一行目の雰囲気ですべてを書け
ると良い。

雲 歸 白 日 逐

佐 竹 光 雲

明るい線質で動きもある。

雲 歸 白 日 逐

草 野 典 雅

洗練された線条好臨。

是 四 方 土 仁 間

滝 口 松 葉

張りのある線での表現が光つ
ている。

向 人 邦 大 雅 為

鈴 木 堯 華

文字過大なれど勢いのある作。

雲 白 日 逐

高 萩 剣 峯

終筆が甘い。筆先に気を。

雲 歸 白 日 逐

大 久 保 蹊 翠

余白が多く目に入るが、墨付
きが良く救い。

雲 白 日 逐

本 江 清 雄

一行目の雰囲気ですべてを書け
ると良い。

雲 白 日 逐

鈴 木 昌 風

墨も入り線質結体ともに安定
感あり。

雲 白 日 逐

杉 尾 雅 峰

細く冴えた線表現が美しい。

雲 白 日 逐

川 崎 聖 山

全体的に大きい感あり。全体
のしまりがほしい。

雲 歸 白 日 逐

比 留 間 花 舟

迷いのない安定した運筆で、
品格のある作品。

雲 白 日 逐

坂 東 剣 山

線の張りが足りないが雰囲気
のある作。

雲 白 日 逐

鈴 木 堯 媛

運筆の妙味と構成の美で叙情
表現の作。

雲 白 日 逐

小 林 雨 恵

大らかに構えている。歯切れ
の良い線もほしい。

雲 歸 白 日 逐

長 谷 川 佳 舟

なかなかの意欲作であるが、
張りのある線質がほしい。

雲 歸 白 日 逐

田 中 峽 洋

字形は美しいが運筆で筆先の
方向に注意すると佳。

雲 歸 白 日 逐

佐 藤 雅 杏

一般部随意入賞作品

白日逐 雲歸
山征矢 関

白日逐 雲歸
山有昌 花

白日逐 雲歸
子訓本 山

白日逐 雲歸
游雅原 宮

白日逐 雲歸
月雅辺 渡

白日逐 雲歸
雪秀 久保田

白日逐 雲歸
泉紫 斎藤

白日逐 雲歸
成雅 木村

白日逐 雲歸
子浩 鍵和田

白日逐 雲歸
葉雅 長沼

白日逐 雲歸
舟理 山下

白日逐 雲歸
子よし 大岡

白日逐 雲歸
蒼秀 吉田

白日逐 雲歸
一昇 岩本

白日逐 雲歸
彩雅 竹岡

白日逐 雲歸
庭栖 小野

白日逐 雲歸
子公 斎藤

白日逐 雲歸
子久仁 浅野

白日逐 雲歸
江美紀 丸山

白日逐 雲歸
子信 山中

びつくりする程迫力のある作。字の大きさに工夫を。

墨量たっぷり堂々とした作。収筆を丁寧。

伸びやかで緩急あり。墨量もたっぷり優れた作。

味わいのある作だが、墨量の変化で安心感が欲しい。

丁寧によく書かれているが白の右角に丸みが欲しい。

美しい字形と趣きのある筆さばきで、味わいある作。

枯淡な雰囲気をもし出しており味わいある作。

字形は整っているが、墨量のためか、濃淡が不安定。

行儀よくまとまっている。大胆さがでればなお佳。

字形は良くまとまっているが墨量に豊かさが欲しい。

すつきりした雰囲気と趣きのある作品。

筆勢も感じられるが、穏やかな安定した作。

うまくまとまっているが、入筆に丁寧さが欲しい。

緩急自由自在、流れも伸びやか。

緩急もあり妙味ある作。しんにゅうの収筆に注意。

味わいのある優雅な線で、魅力ある作品。

大らかなのびやかでいて、筆勢もある気持良い作。

丁寧な気を配りながら書きながらのものびのび大らか。

字形は伸びやかで美しいが、線に肥瘦が欲しい。

とても素直に伸びやかに書かれている作品。

細字・実用体入賞作品

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨をさそる
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

峰 雅 尾 杉

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

子 截 沢 高

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

春 堯 我 有

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

山 有 昌 花

全体のバランスと紙に喰い込む線が
良い。墨量の一考を。

全体的に線が細い。墨が入ったこ
ろも欲しい。

丁寧に書いているが、文字の balan
スを考えると良い作品になる。

墨量で運筆が変わるので一考を。落
款が大きすぎる。

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

舟 佳 川 谷 長

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

山 遊 呂 茂

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨をさそる
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

泉 紫 藤 齋

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

子 公 藤 齋

一字ずつのバランス、肩と隣のバラ
ンスを考えると更に佳。

厳しい線を出せたらさらに良い作品
になる。

毎回しっかりとした作品で素晴らしい。
書き出しの渴筆注意。

軽快な運筆で上位にも負けない作品
です。

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

峰 竹 藤 江

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

山 劍 東 坂

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

子 子 岡 大

荷盡已無擎雨蓋
菊殘猶有傲霜枝

荷の葉はすでに破れて雨を
さえさるわさがない 菊は
咲き残ってなお霜に負けぬ枝がある
蘇軾詩 蘇軾書

吉 連 田 神

ゆつたりとした落ち着いた作品。

墨量が多い。渴筆が出せたらさらに
良くなる。

丁寧に書いている。落款の書き方の
研究をして下さい。

訳文の字間がやや広い。安心して見
れる良い作品です。

近代詩の部入賞作品

尾崎松枝の詩
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

筆線の変化に富む作。

長谷川 佳 舟

旅歌詩
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

独特の世界を展開。インパクトあり。

川 崎 聖 山

旅歌詩 非常
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

一字一字が楽しい。構図も拔群、惹きつけられる作。

牧 本 衛 雲

おぼろげ
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

気迫が漲り凛としています。

小 冷 知恵子

旅歌詩 連山
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

余白が面白い。見ていてほっこり和みます。

茂 呂 遊 山

尾崎松枝の詩 清彦
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

淡々と筆を進めて実直さが漂う。

川 上 清 彦

つ二四
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

無心に筆を進めてほのぼのとした雰囲気です。

黒 沢 ク ニ

尾崎松枝の詩
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

入念に書かれています。

杉 尾 雅 峰

剣峯書
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

素朴な味わいで安らぎを感じる作。

高 萩 剣 峯

旅歌詩 栖庭
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

楽しみながらも工夫が感じられます。

小 野 栖 庭

連吉書
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

自然な筆運びで爽やかな作。

神 田 連 吉

邦子書
はるかな
木の葉
掃けば
ころころ
落葉

巧みな筆捌きで、きりりとまとめました。

近 藤 邦 子

仮名入賞作品

線は柔らかで暖か味があるが、もう少し緩急と潤滑の変化がほしい。

つまをすけさうなの
やうに、は、さう
あ、は、さう、は、さう

中村 笑美子

筆先も入り強い線であるが、字間の間隔も考慮し流れを出してほしい。

つまをすけさうなの
やうに、は、さう
あ、は、さう、は、さう

原 万寿子

線が弱い。筆先をしつかり立て遅速緩急を出してほしい。

つまをすけさうなの
やうに、は、さう
あ、は、さう、は、さう

森 嶋 志津子

悪くはないが、字巾の前後とのつり合い、間隔、緩急がほしい。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

小野 静 城

構図はよいです。出来ればもう少し墨を枯らして疎密を出す。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

杉 尾 雅 峰

墨量はよい。四行目の字の大小、特に母はゞの字であまり大きくしない。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

草 野 典 雅

墨継ぎよく書けてます。渴筆緩急を研究して。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

鈴 木 堯 媛

二行目の「毛」の字は雪の次に来る字なので注意すること。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

川 上 清 彦

墨量多いです。渴淡と緩急の研究を。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

吉 川 溪 水

墨量多い。二行目で渴筆が出ると墨継がきれいに出来ると思います。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

鈴 木 昌 風

墨量多い。二行目から三行目にかけ、渴筆が出ると墨継が出来ます。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

牧 本 衛 雲

線弱い。筆先を立て紙を切るような気持で書くと渴筆も出る。

とまのうらへとゆへ
あ、は、さう、は、さう
やまをすけさうなの

小野里 洋 子

賞状の部入賞作品

賞状

総合優勝

杉尾雅峰殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

杉尾雅峰

墨量よくバランスのとれた安定した作品。

賞状

総合優勝

武山飛雲殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

武山飛雲

行間、字間よくすっきりと好感の作品。

賞状

総合優勝

佐竹光雲殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

佐竹光雲

賞状の体裁を整えた安定した作品。

賞状

総合優勝

鈴木堯華殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

鈴木堯華

切れのあるすっきりとした熟練度の増した作品。

賞状

総合優勝

鈴木堯媛殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

鈴木堯媛

肉太で堂々とした作品。行立、行間に注意。

賞状

総合優勝

川上清彦殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

川上清彦

独特の字体で味のある作品。賞状の文字は大きめに。

賞状

総合優勝

茂呂遊山殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

会長 廣海武彦

バランスのとれた好感の作。自氏名の間延に注意。

賞状

総合優勝

川崎聖山殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

会長 廣海武彦

バランスよく練度の増した作。の字体に注意。

賞 状 の 部 入 賞 作 品

賞 状

総合優勝

吉野充晃殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

吉 野 充 晃

切れのある力強い作品。更なる賞
状字体の研鑽を。

賞 状

総合優勝

小田部 嶂 雲 殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

小田部 嶂 雲

墨量よく切れのある作。賞状字体
の更なる研鑽を。

賞 状

総合優勝

小 冷 知 恵 子 殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会におい
て頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

小 冷 知 恵 子

行立は良いが文字のバラツキ注意。
賞状の文字大きく。

賞 状

総合優勝

齋 藤 公 子 殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

齋 藤 公 子

バランスのとれた真面目な作品。
更なる研鑽に期待。

賞 状

総合優勝

岩 本 昇 一 殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

岩 本 昇 一

肉太で練度を重ねた作品。更なる
精進を期待。

賞 状

総合優勝

花 畠 次 男 殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

花 畠 有 山

バランスのとれた力強い作品。更
なる研鑽を。

賞 状

総合優勝

竹岡雅彩殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

大会長 廣海武彦

竹 岡 雅 彩

墨量よく丁寧な作品。賞状字体の
更なる研鑽を。

賞 状

総合優勝

関 矢 征 山 殿

あなたは第三十八回全日本
体操選手権大会において
頭書の成績を収めました
よってここに優勝杯を贈り
これを賞します

令和元年十二月二十日

全日本体操選手権大会

会 長 廣海武彦

関 矢 征 山

肉太でバランス良く堂々の作品。
更なる研鑽を。

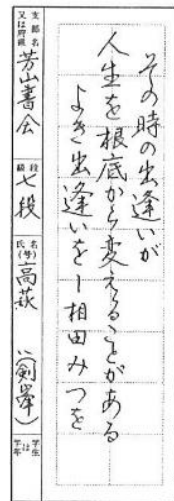
一般部ペン字入賞作品



長谷川佳舟



木村 雅成



高萩 剣峯



比留間花舟



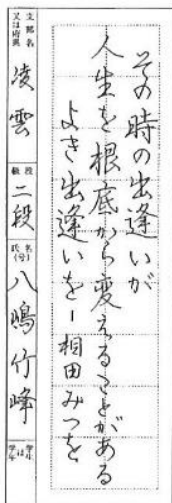
佐藤 雅杏



草野 典雅



竹岡 雅彩



八嶋 竹峰



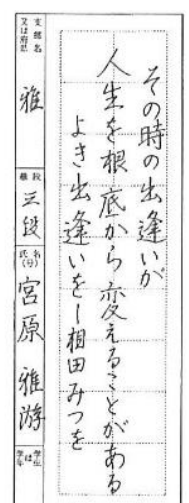
鈴木 堯媛



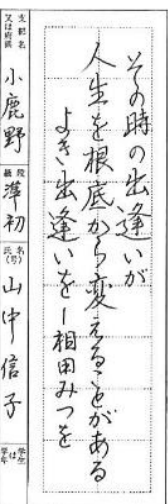
長沼 雅葉



斉藤 公子



宮原 雅游



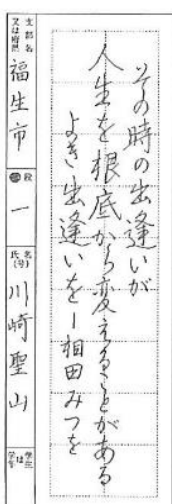
山中 信子



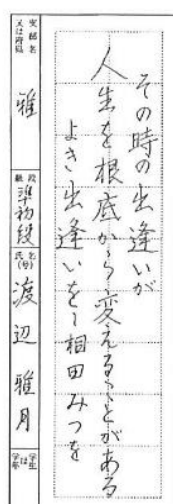
大久保信子



茂呂 遊山



川崎 聖山



渡辺 雅月



小野 栖庭

教育部かな

教育部入賞作品

墨の量が多い。少し筆の墨を紙などで拭き取るようにするとよくなります。

ちはやぶるかみよも
きかずたつたがわ
由依奈

村上由依奈

行がきれいに整っています。結びの違いに気をつけて。

ちはやぶるかみよも
きかずたつたがわ
友樹

大久保友樹

字形よい。ていねいに書きました。
筆づかいとてもよいです。名前も見事。

短い
かぜ
みえ
岡

大久保りさ

文字引きしまり安定の作品。

冷たい
雪
千紘

菅原千紘

むずかしい字を力強く、すばらしい。

ゆめ
蒼依

堀田蒼依

教育部ペン字入賞作品



村上由依奈



岡みえ



菅原千紘

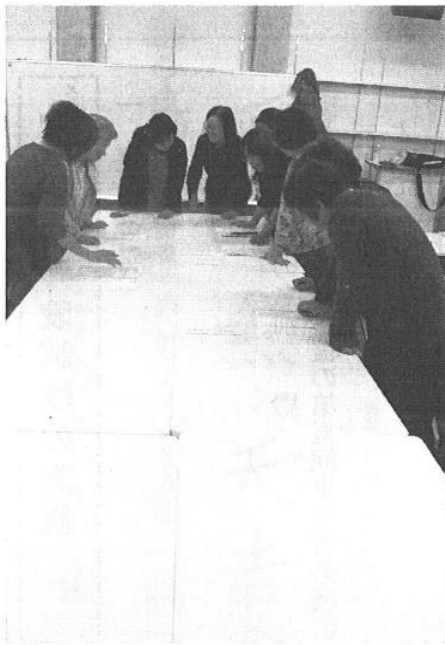


山田夕衣風



山田帆の夏

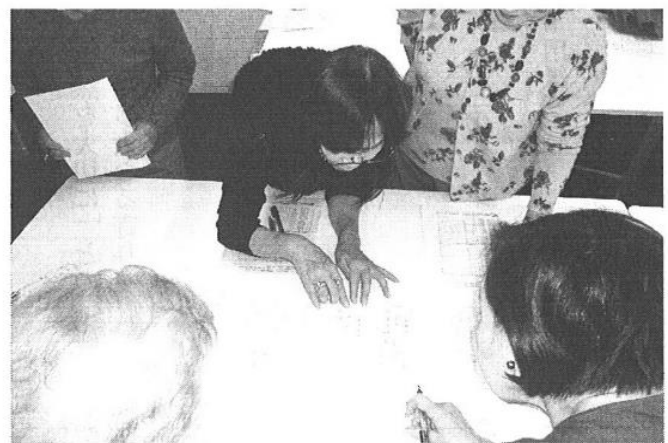
[illegible]



審査項目の打合せ



細かいチェック



第四十三回東邦書画公募展

令和二年四月十八日(土)～同二十四日(金)

東京都美術館

休館日四月二十日(月)

◎ 表彰式 四月十九日(日) 午後四時半から

(於) 上野精養軒

〓 東京都美術館使用契約の最終回です。多くの出品を
お待ちしております。〓

子供の成長と思い出づくりに

東京都美術館に作品の展示を

① 対象

・小学生から高校生まで

② 作品規格

・半切、軸表装

・児童用画仙紙、軸表装

(「書初め」で使用するもの)

※半紙、書き下し

③ 出品料(表装・返送料含)

・半切 一〇、〇〇〇円

・児童用画仙紙 六、〇〇〇円

※軸装は、展示会終了後、出品者に返送します。

④ 取扱店・問合せ

・「書画・水墨画用品専門店 彩あや」

・問合せ・詳細は、東邦書院へご連絡下さい。

◎ 「東邦書画公募展」出品規定等の必要な方は、東邦書院に
ご連絡下さい。

◎ 東邦書画公募展の詳細は、本部に問合せ下さい。

東邦書院 ☎ 〇三ー四四三六ー九〇三二一

「賞状」昇段試験の実施

一 提出（二枚）

【課題二】

賞状

特選

自分の名前 殿

あなたは本協会主催の第五回東京書芸展において頭書の成績を収めました
よってこれを賞します

令和二年三月二十日

東京書芸協会

会長 浅見省吾

【課題二】

感謝状

自分の名前 殿

あなたは当会が推進している「地球の自然を大切に」との趣旨にご賛同されリサイクル運動の発展に多大なる寄与をされました
ここにそのご努力に感謝し深く謝意を表します

令和二年三月二十日

リサイクル推進協議会

代表 関口昌子

二 締切り・送付先

令和二年三月二十日

〒一七九一〇〇七五

東京都練馬区高松六一二一五 二一三〇一 東邦書院

三 使用する用紙等

① 白上質紙 B4（再生紙、コピー用紙）

② 作品の裏面（左下）に、鉛筆で現段位、氏名を記載

四 受験料

① 現二段以下の者

三、〇〇〇円

② 現三段以上の者 五、〇〇〇円

※ 受験料は、郵便振替で送金して下さい。

五 結果発表

「書朋五月号」に発表予定

六 勉強会の実施（賞状の基本的な書き方）

① 可能な限り自分の作品を持参して下さい。

② 令和二年二月八・十五日（土）

午前九時から午前中

（場所）立川・子供未来センター

③ 持参品：自己作品、使用筆、用紙、筆記用具等

④ 参加者は、準備の都合上、事前にご連絡下さい。

（連絡先）「東邦書院」

電話 〇八〇一四四三六九〇三二

【課題二】

【課題二】

賞状

特選

自分の名前 殿

あなたは本協会主催の第五回東京書芸展において頭書の成績を収めました
よってこれを賞します

令和二年三月二十日

東京書芸協会

会長 浅見省吾

感謝状

自分の名前 殿

あなたは当会が推進している「地球の自然を大切に」との趣旨にご賛同されリサイクル運動の発展に多大なる寄与をされました
ここにそのご努力に感謝し深く謝意を表します

令和二年三月二十日

リサイクル推進協議会

代表 関口昌子

↓
1 cm
↑

※2cm巾の紙で繋ぐ

座りの良い形とは

◎冠の中心は、やゝ左へ

やゝ尚四山興岳

◎どの線を長くする

寺重黒里童

◎三本とも短く、左右を揃う

春泰奉

◎部首が、平年幸

小学校では

幸 書道では幸

天吉無 天吉無

◎鳥(普通のとう)と雀(尾の短いとう)

雀 雀(なげすすめ)小さい雀だから小雀

◎一部を必ず出す

臣 臣 雀 唯進集

◎線の方角

不行後 狩獲

放射状

杉須

成 成

口 口 口 口 白田

人 人

木 木

東 東

◎筆順 必

①正しい 必 必 必

②正しい ノ 又 又 必

◎左と右手

右 又 又 又 右 左 又 又 左

◎どちら(すつきう)ない

木 木

葉案柔新 條雜

清書添削券

(返信用切手をはった
封とうを同封のこと)

東邦書院

のり		のり		のり		のり		のり	
かな		近代詩・細字 証・状の部		条幅		半紙随意		半紙規定	
段		段		段		段		段	
氏名(号)	府県又は 支部名	氏名(号)	府県又は 支部名	氏名(号)	府県又は 支部名	氏名(号)	府県又は 支部名	氏名(号)	府県又は 支部名
級		級		級		級		級	

- (注) ①府県支部名、氏名(号)、段、級位ははっきりと書いて下さい。
 ②新規の人は、段、級欄に新と記入して下さい。(本院以外の段、級をもっている方は赤字で欄外に記入して下さい。相当位に編入します。)
 ③この出品券は作品の左下隅に貼付して下さい。

書画作品作りのお手伝い

彩

当店は、より良い品質の商品、一点一点を吟味した表装・額装をモットーに日々精進しております。

書画用品・書籍・絵手紙用品・お香・額等全国発送も承っております。

書画・水墨画用品専門店 彩(あや)

AM.10:00～PM.6:00〔日曜定休〕

〒196-0022 東京都昭島市中神町1186 店 TEL 042-545-3012
FAX 042-545-3022
工房 042-546-9225

◆書朋代の払込方法

郵便払い込みの時は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、何月号と明記して下さい。

誌代 平成三十年四月号から
半年 四、八〇〇円
一年 九、六〇〇円

(送料・消費税込み)

◆誌代切れ

誌代が切れた時は、「書朋」に郵便払込取扱票を同封しますので、速やかな払込みをお願いします。

郵便振替の場合は、郵便局備付の払込取扱票に、口座番号「〇〇―〇〇―〇〇―一五〇―一二二」、加入者「東邦書院」、通知欄「書朋代・期間」を記入して下さい。

◆競書

出品する場合は、必ず本部指定の出品に府県名または所属名、氏名(号)、段級位を楷書で記載して下さい。

出品券は、作品の左下隅に貼して下さい。

新規の方は、出品票に「新」と朱書して下さい。相当地に編集します。

競書・受験のために出品した作品は、返品しません。

◆肉筆手本及び添削規定

添削を受けるには、左の料金を添え、返信用封筒(自己宛名・切手貼付)を同封して下さい。

添削手数料

半紙一枚につき 一〇〇円
条幅一枚につき 五〇〇円

肉筆手本

半紙一枚(六文字まで) 五〇〇円
条幅半切一枚 三、〇〇〇円
細字実用体・近代詩一枚 五〇〇円

○月例等作品の送付先

〒一七九一〇〇七五
東京都練馬区高松六―一二―五
ライオンズガーデン二―三〇―一 東邦書院

◎月例作品講評

【規定】

・全般的に基本的な起筆・送筆・終筆の修得が不十分な作品が多い。

【留意】

・楷書と行書の用筆の修得が望まれる。

【細字】

・日常の毛筆文字をいかに美しく自然に書けるかの課題であるので、書の意識心構えが異なる。

【近代詩】

・文字の線をいかに味あるものにするか。また構図との関係を楽しむのが近代詩で、ただ書くだけでは不十分。

【賞状】

・個癖なく品格ある穂先を効かせた書体が賞状の字体である。

【仮名】

・基本的な仮名の用筆が重要である。仮名の作品の知識を習得しましょう。

〒一七九一〇〇七五

東京都練馬区高松六―一二―五 二―三〇―一

発行所 東邦書院

〒〇三―五三九三―〇六九六番

FAX 〇三―五三九三―〇六九六番

郵便振替 〇〇―一〇〇―一五〇―一二二

印刷所 河辺印刷株式会社

〒〇四―二一五四―一三八五〇番

定価 八〇〇円

(送料消費税込)